

JAたじま 水稲あぜ道講習会資料

令和5年7月

R5年度生育状況

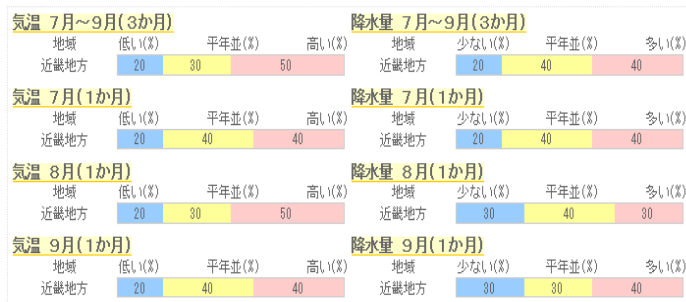
6月中旬以降の気温は平年より高く、梅雨入り後の降雨量は多く、晴天の日が少なく推移しました。

7月以降の管理もしっかりと行い、品質・収量向上を目指しましょう。

北部農業技術センター 調査日:6月30日 品種:コシヒカリ 播種:4月20日 田植:5月10日

草丈(cm)	平年比(%)	莖数(本/m ²)	平年比(%)	葉齢	平年比(差)
59	107	666	119	11.2	+0.5

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



☆近畿地方3ヶ月予報(大阪管区气象台発表)

平年と比較した向こう3か月の天候

7月:前半…曇りや雨の日が多いでしょう
後半…晴れの日が多いでしょう

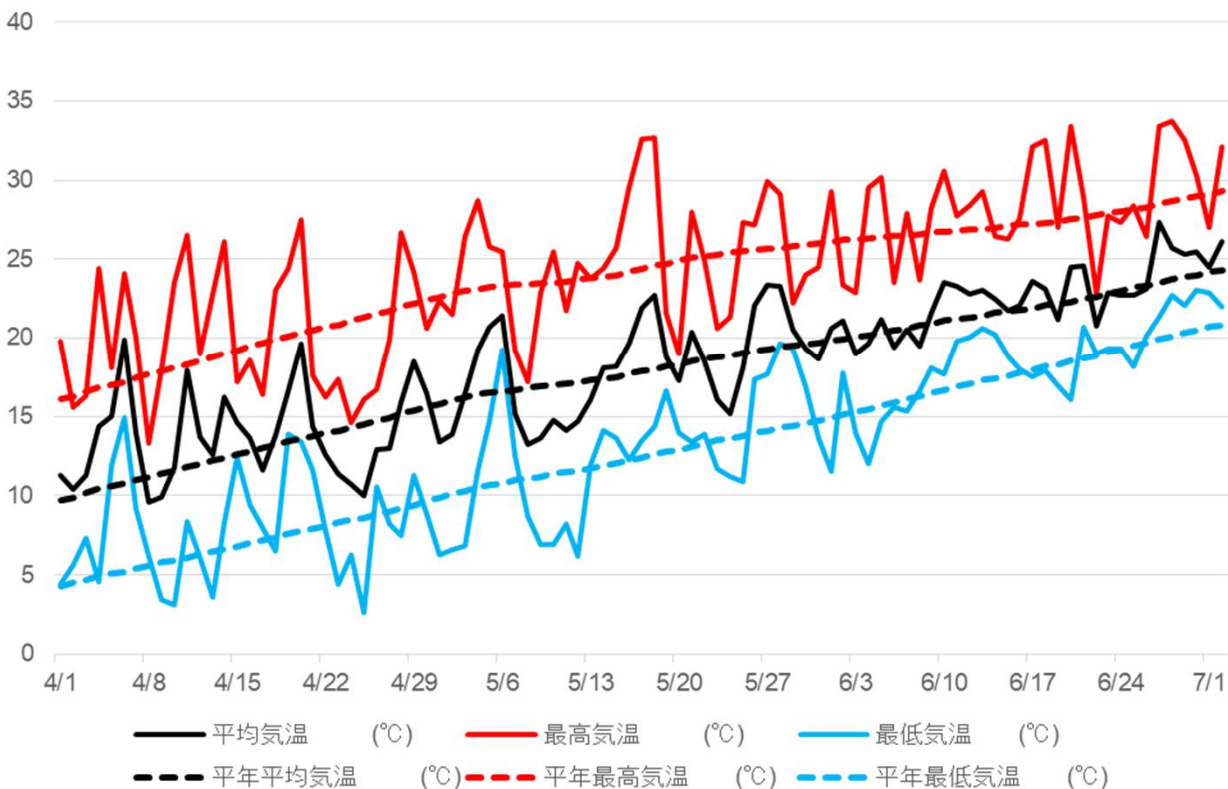
8月:晴れの日が多い見込

9月:数日の周期で変わる見込み

この期間の平均気温は、平年並みか高い見込み

気温(°C)

2023気象図—気温(豊岡)



令和5年産米の栽培ポイント

<乳白米対策>

- ・登熟期に田んぼに水を溜めっぱなしにする ⇒ 水温や地温が高くなり乳白米が発生しやすい。
- ※少しでも水温・地温を下げるため、飽水管理をおこないましょう。

①中干し後の水管理

飽水管理（ほうすいかんり）

- ・水を溜めっぱなしにしない
- ・足跡や溝に水がある程度が目安
- ・稲刈り前の落水まで続ける
- ・登熟期の高温による胴割粒の発生軽減
- ・落水は出穂30日後が目安



②追肥（実肥）

穂揃い期の追肥

- ・出穂5日後を目安に追肥
- ・10アールあたりに窒素1～2kgが目安
- ※特に高温時、茎数が多い場合に有効

出穂日予想 目安

幼穂の長さ	出穂までの日数
1～1.5mm	25日前
2mm	20日前
8～10mm	18日前
15～20mm	15日前

<品質・収量向上対策>

①穂肥散布

- ・一発肥料を散布した場合でも、葉色が薄い場合には追肥が必要
- ・基肥を控えた場合は、穂肥をしっかり散布

②カメムシ防除

- ・カメムシ対策は畦畔の草刈りが第一
- ・草刈りは出穂2週間前までに実施
- ・出穂後には仕上防除剤を徹底
- ・スタークルの散布タイミング 粒剤、豆つぶ → 出穂7～10日後、粉剤、液剤 → 出穂10日後

資材名	散布時期	散布量 (10a)
有機入化成242	出穂15日前	20kg
有機入化成066 (ふるさと但馬米)	出穂15日前	20kg
いねめいじん744 (つちかおり米)	出穂25日前	30kg

③いもち病

- ・多湿、日照不足で発生しやすい
- ・窒素過多や軟弱徒長が発生を助長



この点が発生初期症状（要注意）
斑点の数が増えてどんどん広がっていきます。

葉いもちの病斑（急性型）